

ペスタロツチを記念す

東京女高師附屬小學校 澁谷義夫

「此處にハインリッヒ、ペスタロツチ永眠す。千七百四十六年一月十二日チユウリツヒに生れ千八百二十七年二月十七日ブルツグに死す。ノイホーフに於ては貧民の救助者となり「リーンハルドとゲルトロード」に於ては國民の宣教師となり、スタンツに於ては孤兒の父となり、ブルグドルフ及びミュウンヘンブクゼーに於ては新國民學校の建設者となり、イフェルデンに於ては人間の教育者となる。眞の人間たり、基督教徒たり、市民たり。總て他の爲めに働きて、一つも私の爲めにすることなし。彼の名に幸福あらんことを祈る」

彼の墓誌銘はかくの如く述べて居る。これペスタロツチの一生を極めて要をつまみ簡約し盡して餘す所なき言葉である。

カント以來教育の根據に關する理論の傾向は二つの異つた方面に發展して來て居る。一つは即ち分析的であり心理的方法であり一つは即ち綜合的統一的な論理的方法であつた。然しながら其説を爲すものは何れも高遠な理論を説く人であつて未だ教育の實際に立ち入り、實際的な諸問題に直面することは

少なかつたのである。然しながら身を挺して教育の實際界に立ち入り貧兒の父となり孤兒の親となつて苦しくもあり煩鎖でもある此の教育の實務の中から、人間性を直観し、「王侯の等きにあるものも、其日の食に窮する貧民も人間性と云ふものに於ては共に神より生みつけられた神の子である」と述べ「此の人の陶冶こそ教育の目的である」と云つて居る。

當時の教育の實際界は教師が既に知れる幾多の知識を兒童に物語り、兒童に話し、或は讀ましめて知識を興へることに専心に努力して來たのであるが、彼は兒童の内に萌す研究心を直観によりて刺戟し木の成育し花の開くが如く、内に萌した求むる力を基として、兒童をして自から求むる力に加ふるに教師の技術を以て、其力を助長するに足る材料を興へやうとした。彼の言葉に従へば、如何に頑迷であり固陋な人間でも、如何に貧困であり曲げた性質を持つて居る人間でも物を直観する力の無いものはない。此の直観を出發點として、あらゆる智識の最も簡單にせられたものを秩序を追ふて求めしむれば如何なる人間でも其本性を發揮して行くことを得るものである」とし自然と人工との調和を極めて眞摯に求めたのである。哲學に於て其組織の仕方をコペルニカスの轉回を行つたカントに比すれば正に我がペスタロッチは教育の方法を正にコペルニカ斯的に轉回した人と云ふべきである。殊に其行き方はカントとは異つた。然し見つめた人間性の展開を企むつことに於てカントと同一目標をねらつたのである。此のことは既に彼の有名なフイフテが彼自からペスタロッチを訪れて、彼に於ける偉大な仕事を認めて呉れたの

であつた。ファイテがベスタロッチを訪れたのは實に彼の卜居リヒタースウィールと云ふ村であつた。此處で「リーンハルドとゲルトロード」の著者たる醜き相貌の持主ベスタロッチに合つた。容貌の醜にして然も質素な衣服を纏ふて居たのである。當時彼は人類の發展に於ける自然の道理に關する研究をして居たのであるが此處にファイテと會ひ談を交せしに、相打ちたる氣合は二人を密著しめ、時の經つのを忘れしめた。然してベスタロッチは彼の裡にひそめる真理以外に何物も見出し得なかつたことを述べて居る。即ち經驗の導ける結果に即して知るものゝ外何も知り得なかつた。故にベスタロッチは他人の哲學を必要とはしなかつたのである。此の態度をナトルプは評して云ふ。「それは經驗を探究する新しき道であり、人間を發見する甚だ新しき方法である。彼以前の何人も此處に足を入れしものもなく何人も思ひ及ばぬ所であつた。」即ちベスタロッチは自己の經驗よりして自己の思想を生み出し、それを實現して行くことに最大の價値を置いたのであつた。彼の思想は己れ自身の經驗に基けるものなる故、發表に不用意であつたり、他人に分らぬ言葉を述べて居るのであるが、彼の云へる所のものに、如何に内面的な深みがあるかを直觀するがよい。然も此の直觀は自分の教へて居る兒童の心情に喰ひ入つた時に於て始めて爲されたものである。彼れの己れ自からの經驗の結果より推論し導き出した思想を築き上げて行く其態度其物は吾々から考へて見れば實に吾々の取るべき態度を指示したのではなからうか。實に彼は人生の真理を外に求めずしてこれを己が内に見出した天才とも稱すべきものであらう。

然も彼の此の思想は己が誠を子供に獻げし時に出て來たものであると云つてよい。實に七十年の間の苦闘と痛き失敗より生み出したものである。此の様にして生み出せる元の態度は吾人の多くが稱へるに忙しいのである。然しながら此の様な敬虔な態度と崇高な思想は如何にして彼ベスタロツチから出て來たか、今少しく彼の一生を熟視して彼の態度と彼の思想の依つて起りし點を明かにし、彼の死後百年を記念し度い。吾々に於ては彼が何年に生れ何を爲し何年に死んだと云ふことはさまで問題では無い。唯彼自からの體驗よりして世に明にせる經驗により思想を築き行く態度其物が大に價値があるのである。吾々は意義としてベスタロツチを認め彼亡き後の百年の今日、新しきベスタロツチたらんとするの力そのものを禮讚するのである。然し彼の一生を眺め此の態度を得る手段とすることは無意味では無いであらう。

二、ベスタロツチの幼時

ベスタロツチは一七四六年一月十二日西瑞の國チユウリツヒ市に生れた。彼が父は醫師であつたが、彼が六歳の時死した。死の床に横はれる彼の父は、彼の家に來て六ヶ月しか經たぬ下婢バルバラシミットを枕邊に呼び、我亡き後は我が子供を見て呉れるやう厚く頼んだ。シユミットはこれを諾した。そこで彼は安んじて目を閉じたのである。其から以後は此の下婢はベスタロツチの家の家婦となり下女となり、出來る限りの力を出して此の哀れな一家を支へたのであつた。即ちベスタロツチは女の手ばかりで育つたのであつた。此の事が彼の一生に非常な不幸を與へたのである。彼が天性柔弱であり、興奮し易い感情

と活潑な想像とを有し思慮考察の周密を缺き事々に失敗を招きしは彼が父より嚴格の教育を受けなかつた結果である。父の死後は一家の經濟を餘程切りつめる必要があつた。その爲めに戸外に運動する時は衣服を汚損するとか靴を壊すと云ふことが心配せられて、出來得る限り室内に塾居をせねばならなかつた。その爲めに野外に出て男らしい活潑の運動をすることが出來なかつた。その爲めに男らしい心情男らしい運動性を發展させることが出來なかつた。實に彼は母の居室と學校教室の狭く限られた範圍の他世界を熟視することは出來なかつた。然しこれが一面に彼の性質を感激的ならしめ、深く神を信じ、盡きぬ愛情を惹き起さしめる原因となつたのである。彼の祖父の家がチュリツヒ在にあつた。此の人は教師をして居たが此處に來り毎年數ヶ月を送ることゝした。此の間に彼は實に深き博愛、同情を克ち得たのであつた。

三、學校時代のベスタロッツチ

男性の陶冶に於て缺くる所のあつたベスタロッツチは遊戲に於ても又運動に於ても不熟練であつた。其爲めに友人間の嘲笑の的となつた。然し彼が親切でよく他人の世話をすることはやがて友人共が彼を愛する原因とはなつたのである。彼は理解力に於ては非常に優れて居たのであるが、彼の諸學科に對する態度は種々であつた。其好める所は非常に熱烈であつた。時としては熱烈の餘りそれより重要なことを忘れることがあつた。心の向かぬ所には注意を向ける處が不足であり従つて熱を持つて來なかつた。其爲

めに彼の教師は彼の運命について正常の發展を遂げ得ないであらうとさへ見込をつけた。實に彼の此の時代のことを憶ひ出す爲めに彼の言葉を借りて云ふと「余は一番よい生徒の一人であつた。けれども常識のある人にはそんな馬鹿など云はれるやうな誤を犯し、どんな劣等生でさへも犯すことを敢てせぬやうな過をしたことがある。余は事物の本質についてはよく正しく理解したが、どんな風にして理解すべきかと云ふ様な形式には無頓着であつた。それで國語の方面だけについて云つても、或る部分は級中の最優學生であり、ある部分について云へば級中の最劣等生であつた。學習すべき事項について云へば眞に之を理解すると云ふよりも感受することに長じて居た。又一面實際に役立つ様な事務的の仕事を輕視しつつ、一方に於てはかゝる仕事を大に役立つ様に實行して見たいと云ふ熱望を持つて居た。そして不幸なことは余の郷里の學校に於ける公民的の一般的教育の精神は、兒童をして實地に練習さす様なことを一つもせずして、實行せんことを勧め努力せしめんとし、よく其技能についての空想を生せしめるに最も適したものであつた。獨立獨行、慈善、献身及び愛國は實に我が國民教育の標語であつた。然し此のモットーの實現に必要な實地能力の養成は少しも顧みられなかつた。」と云つて居る。

彼の學校期に於ける如き學校は今日一つも無いであらうか？ 兒童をして或は幼兒をして、出來もせぬことを出来るやうに空想せしめるやうな教育をやつて居る學校は無いのであらうか？

ペスタロツチは其後チュウリツヒに於ける高等學校に入り宗教を修め、宗教家として農民の保護救濟

に力を盡さんとして神學の專攻に努力したのであるが、其後これを止めて法律を學び國民を救はんとしたのである。これは當時歐洲を支配する佛蘭西革命を逆き起さしめたルソウの説に感動した爲であつた。其後ルソウの著はしたエミールを讀んで後、彼の空想は愈々以て刺戟せられ感動せしめられた。彼は實に彼の母の居室や學校の教室で受けた教育とエミールとを比較し、從來自分が受けて來た教育は不具であるとし、此の不具な教育の救済は一人ルソウの教育理想のみが解決し得るものと見た。此のルソウの教育理想に刺戟された彼は、法律を學ぶことにより最も正しい理想的な自由主義を解し郷里及び祖國の爲めに最も多く貢獻し得る機會と方法とを得ることが出來ると信じ、宗教家たることを斷念したのであつた。當時西瑞にて官吏たり得るものは高位高官にある貴族の信任を博せねばならなかつた。然るに革命思想は此の貴族の受け容れ得ぬ所となり到底官吏となる事は出來なかつた。然るに生真面目な彼は一心に勉強した。過度の勉強をした彼は甚だしく健康を害した。其爲めに一時勉學を中止した。然るに彼は當時歐洲を支配せる經濟思潮たる重農主義を讀み、農の重んずべきこと、國利民福の根本的資源は農業に依つて粗材を産出するに越した事は無いと固く信ずるに到り、學を廢して農を以て世を渡らんと決心した。そして一年有半農業を實地に學び、ビルなるアルガウの村に土地を求めて必要な家屋を建築し其全體をノイホーフと呼び新夫人を伴ひて人生の門出に立つたのである。

四、事業への首途

茲に彼は十八世紀に於ける革命的社會改造家の一員としての出發をした。彼は後に教育の實際家となるが、彼は世の教育家の常なる止むなく己れの研究を餘儀なくせしめられたのとは違つて、社會改造の理想に燃えて行つた熱心な事業であつたのである。

彼は二十一歳の時自分の所持せる書物を悉く焼き捨てた。そして實に自然の子たる農夫となり終つたのである。彼の幼き息子ヤコブは實にペスタロツチの教科書となり、實驗臺となり、彼の家其者は實驗室となり研究室となり實驗學校とはなつた。

彼はルソウの考へた根本觀念を出發點とし、ルソウが單に見ただけの或る問題を彼は體驗し、痛き失敗を甜めつゝ、自分にもよく分らぬ自然の運動場たり教場なる野原に出て働いたのであつた。其後彼は其地方の貧民の子供を集め、此の子供等の惡癖を取り除き、邪惡の世に染まりし汚點を抜き、神の子たる人間性を發揮せしめんとしたのである。然し誦詐にして人を偽つて恥ぢず、人の目を盗んでは惡戯を行ひ、怠けては最善を盡せる如くに見せかける此等の子供は、生一本にして何等困難の實際に觸れざる好人物ペスタロツチを欺き遂にペスタロツチをして意氣に燃えた此の壯舉を中止せしめねば止まぬと云ふが如きことにして仕舞つた。そして彼は遂に彼が救はんとする貧民よりも餘程貧乏となり、夫人の持參せる財産を悉く消費するに至つた。彼は世人から笑はれた。嘲けられた。罵られた。然し當時の農民は誦詐をこれ事とし、するきこと狐の如く其眼を光らし、惡辣なること梟の如く暗に於てはあらゆる惡を爲

すと云ふ世態であつた。此處に於て好人物が彼等の救濟を目的としたのであるから、ペスタロッチが彼等譎詐にして惡を爲して恥ぢぬ人間どもの喰物となつたのは無理からぬことである。

彼を目して實務の才の無いと云ふのは彼自身の述べし言葉を其儘受け賣りするが如きものであつてペスタロッチ以上の好人物の評であると云つてよからう。殊に理想にのみ燃えて民情をも調べず僅か一年有半の修養で農事に従つた彼が失敗したのは當然の道行である。

彼は遂に農場を閉ぢた。そして愈々事業に於ける改造よりも先づ人間の改良、農民の改良が農業の改良に先立つべきものなることを強く感じ、此の若かき失敗の經驗を基として隱者の夕暮なる本を著はし、後にかの有名なリーンハルドとゲルトロードなる書を出し世の母たる人の相談相手となつたのである。人心の改造は先づ家庭よりと強く考へた。社會改良の實を擧げんと努力しこれに失敗して名を小説に借りて其抱負を述べしペスタロッチの胸中こそ實に哀れでは無いか？

此の書について彼は云ふ「此の書の述べる所は地方の貧民及び保護の恩恵に浴せぬ者の心を汲んで發した余の最初の言であり、地方の人民及び放棄されたものゝ爲めに、神に代つて盡さうとする人の心情についての余の最初の言であり、田舎の下層社會の母たるものについて、父母の子に對する特別の心情について余の最初に發した言である」と。而して社會の暗黒面は一體何人が作るか、社會の墮落は何人が與つて力を爲して居るかを示し、家の母たる人の心得、人の上に立つものゝ心得を高唱したのであつた。

彼は此の書の發行後尙十七年間ベスタロツチはノイホーフに留り困難な生活を繼續し著述に従事した。其主なるものはクリストフとエルゼ及び「人類種族の發展に於ける自然の過程についての研究」と云ふのであつた。

五、スタジフに於ける慘苦

一七九八年ベスタロツチの後の生活に大なる變化を與へる事件が起つた。それは佛蘭西兵の瑞西滲入である。其爲めに同國は慘害を受け孤兒、貧兒の數は著しく増加した。此のことは痛くベスタロツチの心を刺戟した。そして或る長官の勸めに依つて一尼庵を借り受けて貧兒孤兒を收容して教育する様にした。最初五十名を收容したが後八十名に増加した。其收容した兒童は四歳乃至半歳の憫むべきもので路頭に迷ひ、食ふに家なきものどもであつた。子供は不潔であり不健康であつた。中には不良性を持つて居るものも少くは無かつた。收容所は狭かつた爲めに思ふ存分の活動は出来なかつたが、全力を盡して活動せる結果とにかく良好の成績を擧げるやうになつた。

此の貧兒の間に立てる彼は、兒童教授に關しても、屋内の注意をするにしても、獨力でこれをやつた。彼自身の眞の目的を達する爲めに自分一人でやる必要があつたと云つて居る。そして「總ての善良な教育に必要なことは母の慈愛に満ちた眼が一室内に於て、毎日、又は毎時間其兒童の心的狀態の變化を其眼其口及び顔色を見て確かに知ることである。又教育者の力は家庭内一切の關係を主宰する父の力である

ことを必要とする。私はこれを基礎として兒童の教導を始めた。私の心情が全く兒童に通じ兒童の幸福が私の幸福であり、彼等の喜びが私の幸福であつた。これは各瞬間に於ける子供の顔色や口唇から覺へることが出来た所であつた。彼等の精神に又身體に良いことが生じたならば、それは私の中から興へられたものであつた。兒童の受けた總ての補助や教訓は全部自分から發した。私の手は彼等の手の上にあつた。私の眼は彼等の眼に向つた。私の涙は彼等の涙であり私の笑ひは彼等の笑であつた。「私は彼等が健全であれば、其間に立ち彼等の病める時は其間に坐した。私は彼等の間に寝り、夜は最後に寝ね、朝は第一に起きた。私は寢床に入つても彼等の眠るまでは彼等と共に祈り又彼等を教へた。且常に傳染病の中にあつて、危険を冒し、手のつけやうのない子供の衣服や、其體を仕末してやつた。さうする中に子供達は私を信用するやうになつた。」と。

彼は茲で自分の身をかまはず働いた。そして過勞に陥つた。然しながら教育者としての決心と自信は茲で作られたのである。然しながら幸と云はうか、不幸と云はふか一七九九年には佛佛蘭西はオーストリアから驅逐されスタンツに來り、此を病院とした。ペスタロツチは其事業の中絶を悲觀した。然しながら此の事件なくば彼は休養すること能はずして必ず斃れたものと見ることが出来る。

彼は屢らく休養の爲めグルニゲルに滞在した。然して後彼はブルグドルフに趣き、一學校教師として立働くことゝなつた。此處で彼は嘗てスタンツに於て畫きし彼の教育法を實地に試みやうとしたのであ

る。此の時教育の監督官たるグレールが、彼の教育法を評して教育を機械的せんとするかと云つた時、これこそ眞に自分の目的や方法の本質を示すものとしたのであつた。彼は草本の自然に成長する有様から直観して、人間の生長發展にも同様の自然の順序あるものとし、此の自然の發達を助長する爲めに技術を以て兒童を導くこそ眞の教育教授であるとした。そして直観を以て總ての知識を根元とし、此の強弱・廣狹が個人の全思想の組織に重大關係を持つて來るものとしたのである。而して讀方等も初歩教授に於ては始めから口眞似で讀方を教へるやうなことを止めて、實物を觀察せしめ、同時に其名を知らしめる事とし、書方から始めるやうなことをせずして角、直線、弧線等を畫かしめ此の簡單な出發點から缺陷なき進歩を企つることに依つて獨立の生活を爲し得る識見と思考力を得るやうに到らしめんとした。然し彼の企ては校長にも父兄にも容れられざりし爲め、彼はブルグドルフの孤城を借りて自ら新學校を創設したのである。時の政府が彼の企てを認めし爲め彼は勇を鼓し、彼の事業に従ふと同時に、彼の教育意見、感想希望等を纏めて發表した。これが有名なゲルトールド兒童教育法である。

六、彼の教育思想

教育に關する彼の信條は次の如く纏めて述べ得る。

- 1、直観は、教授の根底である。
- 2、言語は直観と綜合せねばならぬ。

- 3、學習の時は判断及び批評の時限であつてはならぬ。
- 4、どの科の教授に於ても教授は其科の最も簡単な要素から始めなければならぬ。そして漸次兒童の發達に従ひ程度を進むべきものである。即ち心理的に關聯せる發達の段階を追ふて進むべきものである。
- 5、休憩は各時間の後におくべきものであつて、どの兒童も新しい事實を理解し、それを自由に使用し得る準備が出来るまで時間を充分に與へねばならぬ。
- 6、教授は發展の道に従はねばならぬ。即ち獨斷的な説明をしてはならぬ。
- 7、兒童の個性は教師の尊重し神經視すべきものである。
- 8、初歩教授の主目的は兒童に知識を與へ、才能を授けるのではなくして兒童の心力を練るものでなくてはならぬ。
- 9、知識は此の心の力と結合せねばならぬ。即ち知らんとする物は考へると云ふ能力に轉換さるべきものである。
- 10、訓練に關係する限り、教師と兒童との關係は愛によつて打立てられ規正されねばならぬ。
- 11、教授は常に教育全體から見て、より高い目的に従はねばならぬ。

と云ふ様に述べ得る。

彼は實に兒童の心意發達の方法について訪ねた。そして右の如き意見を得たのであるが就中彼は其方法として

1、子供の感覺的印象の範圍を益々擴張せしめ、2、其印象を確實に把持せしめ、混亂せしめぬ様にし、3、自然と人爲が彼等に齎らし來れるものに對して言語の完全な知識を與へることにより自然の發達を助成し得るとしたのであつた。

即ち直觀を基として文化の最も簡單な要素を充分に熟達せしむれば、兒童の心意は自然に發達し得ると云ひ、子供等が充分な知識技能を有せぬと云ふのは其根本に於て不明の點あるによると云ふのである。そして直觀によりて得る感覺的印象が總ての知識の根元であるから、此の直觀を基礎として人知の最も簡單なものから陶冶をして行かねばならぬとした。而して人知を分解して得た最も根元的な單位は言語、と形と數であるとした。故に凡ての直觀的練習は此の三點に觸れるやうにし、此の三要素の初歩に完全な陶冶を受けたものは、よく自然の順序に従つて發達し得るとしたのである。而して如何なる教授も教育も必ず此の中の何れかに觸れしめねばならぬとした。

此の數、形、言語は如何なるものにも必ず存するが故に總ての知識の基礎である。此の三方面の發達は即ち吾人の高尚な知識の源の發達である。此の考へから彼は教授は言語に關するものと形に關するものと數に關するものとし、言語の教授は音の教授の一部に屬するものであるから、音の教授は個々の音を聽

き且つ發表することから始め、次に單語に入り最後に話す事の練習を爲さしむべきものとし、此の最後の練習に依つて直觀が始めて明瞭な概念にまで進められるのであるとした。形に關する教授は測量し畫き、且つ書くことを練習すべきである。線の種々の地位の直觀、並行線、直角、銳角鈍角二等邊三角形、四角形、及び異なる圓を示し名稱を教へ之をよく覺へさして後これ等のものを石盤上に畫かしめねばならぬ。紙に畫かしめることは誤つたものを永く保存することになる故に大なる惡影響を與へるものだと云つて居る。書くことも測量及び圖畫の附屬として後には話すことを學ぶ上の一課として練習さすべきものだとしたのである。

數については先づ一から千までの數を物につき直觀的に教へ、増減することの出来る實物の提示によつて多少に關する意識を生ぜしめ、次に各數に含まれた單位を明かに意識せしめ、單位を一とするか二とするか或は三とするかに依つて同一の數でも種々に分割され得ることを了解せしめ、これを抽象的に取扱ふことを必要としたのである。

作業については彼は大に此を尊重した。作業（構成的活動）は兒童の心力を發達せしめるもの、中最も確かなものである。何となれば人は學んだものによるよりも行つたものによる方が實際によほど發達するものであるからであるとして居る。

兒童が内に有する人間性は經驗の世界にある實在と實際に密接な關係を有するに相違ない。そして實

際の經驗から現實的な印象を受けるものである。兒童の自然は自然界に於ける自然の秩序に従つて印象を受けることにより自然に對する直覺が啓發せられ、道德に關しては、此の自然の性質に従ふ事により道德的に世界の秩序を印象を受け、之が啓發せられるのである。兒童の神に對する關係は兒童の母に對する關係に基く。幼弱な兒童と母との關係は廣く人に對する愛情感謝及び信賴の念を發達せしめ遂に神に對しても同様な感情を發せしめる。「兒童の最初の教授は知的の事項でなく理性的のものでなく、常に心情上の事柄であり感情上の事柄である世の事柄である。又教授は理性上の事柄となるまでに既に永い間心情上の事柄として止まり、男子の事項となる前に永く女子の事柄として止まるべきものである。」母を愛するの情が總ての道德の最も簡單なものであり最初のものであるとして居る。

此の様に於て三四歳の子供を教育して見たが七八歳の子供が最初から書物學校で學び得たものよりは遙かによく物を學び判斷することを得たと云つて居る。

つまり彼は兒童の心を内面から働かしめ、外部からこれを働かし指導しやうとはしなかつた。自然は始めから完全な形で兒童に存するものではない。自然は兒童の經驗が作り出す最後のものである。知識の最後の形は概念の發達を通して得られる。概念は混亂せる直觀より得られねばならぬ。然もこれは兒童が内に働かしめる力に依りて得なければならぬとした。カントが思惟に於ける大轉回を企てたと同時にベスタロツチは教育に於ける一大轉回を企てたのであつた。

一八〇四年彼はミュンヘンブクゼーに赴き更に彼はイフェルデンに行つた。一八一五年十二月ペスタロッチの夫人が死んだ。それと共に彼は部下の教員を統ぶべき術を失ひ、其學校を死の思を爲して解散し、ノイホーフに赴き一八二七年ブルツクに於て二月十七日死亡し此の世と最後の別を爲したのである。嗚呼、彼死して百年、彼の理想は如何なる状態に進展したか？ 彼をして今日各國の國民教育の實際を見せしめたい。

——アメリカから訪ねて来たお人形——

文部省でお宿をしてゐるといふ、アメリカから訪ねて来た先着のお人形さんを見せていただきました。

今までに新聞やなんかで委しく紹介されたから、もう御承知のことでございますが、各々のお人形さんは、みんな旅行免状を持つてゐました。それには寫眞が添へてあり、名まへ産地は無論のこと、目の色鼻の形、髪の色口の形まで記入してございます。又向ふの少女から我國の少女に宛てたお手紙もあつて、それには、そのお人形さんの生活をくわしく知らせてゐるのでございます。旅裝も到れり盡せりで、丸で大切にされてゐる一人子の様でした。中でも、贅澤なお人形さんは、立派な手頃の革製のトランクを持つて居ました。その中には洗面道具、結髪、化粧道具、衣服類(夏冬、平常着、晴着靴、靴下、ハケ、何でもかんでもちやんと整へて、幾通りもは入つてゐました。牧師さんらしい風采をしたお人形さんが、小形のバイアルを持つてゐるのには思はずも微笑させられました。うつむく時、目を伏せながらマーと優しい聲を出すなど、可愛らしくも驚くばかり精巧なものでございます。

何れは皆さんの幼稚園にも訪ねて行く事でございますが、一寸お先きに口繪で、寫眞を御紹介いたして置きました次第です。(編者)